

and アンジェリカ・ヒューストン



ナチス占領下、フランス・ピレネー山脈の麓の小さな村で起きた奇跡の物語。

少年はユダヤ人の 子供たちを救うことができるのか。

1942年、第二次世界大戦さなかのフランス。ピレネー山脈の麓の小さな村に住む羊飼いの少年・ジョーは、平和な日常を送っていた。しかしある日、ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ人・ベンジャミンと知り合い、ユダヤ人の子供たちを山の向こうのスペインに逃す救出作戦に協力することになる。そんな中、ついにのどかな村にもナチスがやって来た。村人たちを巻き込んだ作戦のゆくえは――。

ジョーは父親や祖父、ユダヤ人、ドイツ兵らとのかかわりの中で様々な気づきを得て、世界を広げる。少年は、戦時下での思いもよぬ出来事を経験しながら、大人へと一步步近づいていくのだ――。
人種差別や迫害を描いた従来のナチス映画とは趣の異なる、生きることの素晴らしさと希望を描いた異色の映画が誕生した。

ノア・シュナッップの熱演と、彼を支える個性豊かな俳優陣

主役のジョー役は、Netflixテレビドラマシリーズ「ストレンジャー・シングス 未知の世界」で世界的に人気急上昇中のノア・シュナッップが大抜擢され熱演した。彼の脳を固めるジャン・レノ、アンジェリカ・ヒューストンのベテラン2人が、ユダヤ人の子どもたちを救わなければいけないという重責と苦悩をいふし銀の演技で表現している。ナチス・ドイツ将校の役に人間味を持ち込こんだ演技を魅せたドイツの名優、トーマス・クレッチマンも印象に残る。



スピルバーグ監督により映画化された『戦火の馬』の原作者が贈る“希望の物語”

イギリス児童文学を代表する作家のマイケル・モーバーゴは、戦争を舞台に人間本来の姿やその本質を、市井の人々を通して問い続けてきた。原作「アーニャは、きっと来る」は1990年にイギリスで出版されて以来、世界中で慣れ親しまれている作品である。暗い歴史に焦点を当てるだけではなく、羊飼いの少年の成長を雄大なピレネーの自然を背景に描き、様々な視点からアプローチした意欲作と言える。少年は希望を捨てずにアーニャを待ち続ける――。



『アーニャは、きっと来る』 原作、絶賛発売中!

マイケル・モーバーゴ作／佐藤見果夢訳／評論社／定価：本体1400円
全国学校図書館協議会選定 第53回夏休みの本

アーニャは、
きっと来る

監督:ベン・クックソン 脚本:トビー・トールズ ベン・クックソン
原作:マイケル・モーバーゴ 「アーニャは、きっと来る」(評論社刊)
出演:ノア・シュナッップ、トーマス・クレッチマン、フレデリック・シュミット、
トーマス・レマルキス、ジャン・レノ、アンジェリカ・ヒューストン
2019年/イギリス・ベルギー/英語/109分/カラー/ヨーロッパビスタ/5.1ch
原題:Waiting for Anya/字幕翻訳:関美冬 配給:ショウゲート ©Goldfinch Family Films Limited 2019



CINERACK.JP/ANYA/ G 映倫 2019-10

11.27 FRI 全国ロードショー